エコマークのご案内

お買い物をするときは、
何を見て選びますか?

**エコマークは環境にやさしい
商品購入の目印です。**

財団法人 日本環境協会　エコマーク事務局

エコマークは持続可能な社会をめざし環境に配慮した商品を通してみなさんをつなぎます。

私たちのまわりにある商品の中で、環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品にのみ与えられる証、それが「エコマーク」です。

エコマーク事業は、1989年から(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。

環境保全に役立つと認められる商品にエコマークを表示することで、みなさんに、環境保全をアピールし、環境にやさしい商品選択に役立てていただくことを目的としています。

エコマークは商品の一生(資源採取からリサイクル・廃棄までのライフサイクル全体)を考えて基準を作っています。

例えば

いくら使用時に省エネ製品であっても製造時のエネルギーが今までの数十倍かかってしまうとしたら、必ずしも環境にやさしいとは言えません。
エコマークでは環境負荷を総合的に考え基準を作っています。

! エコマークは財団法人日本環境協会の登録商標です。認定されていない商品に無断で使用することはできません。

エコマークは中立の第三者機関が認証する信頼の環境ラベルです。

商品の環境に関する情報を伝えるために表示するのが環境ラベルです。国際標準化機構(ISO)による国際規格ISO 14020シリーズにおいて、環境ラベルはその特徴によってタイプI～Ⅲの3種類に分けられています。

■ ISO(国際標準化機構)による種別と特徴

タイプI (ISO14024)“第三者認証”

第三者が『資源の採取から廃棄まで』全ライフサイクルにおける環境影響を一定の基準に基づいて認定

エコマーク(日本)　ブルーエンジェル(ドイツ)

タイプⅡ (ISO14021)“自己宣言”

一定の基準を満たしている製品に対して表示される事業者等の自己宣言

バタフライロゴ

タイプⅢ (ISO14025)“環境情報表示”

製品が環境に与える負荷を技術報告書等で定量的に表示

＜識別マーク:分別の際の参考＞

プラ　PET

エコマーク事業について

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべてエコマークの使用契約を結んだ企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。

エコマークの運営体制

エコマーク商品の購入で地球を守る。そんな意識が広がっています。

地球温暖化や熱帯雨林の減少など、環境問題は地球規模で取り組まねばならない大問題です。個人の努力だけで今すぐ解決できる問題ではありません。だからといって手をこまねいているだけでは悪化の一途をたどるのが明らかです。

私たちは毎日さまざまな商品やサービスを購入して暮らしています。その際、環境負荷の少ない商品やサービス、すなわちエコマーク商品を選んで購入することは、決して難しいことではありません。地球の未来を守るため、一緒に始めてみませんか。

身近にあるエコマーク商品

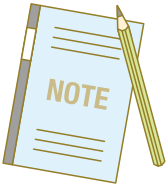
日用品・日用雑貨

- カップやお皿、お椀などの食器類
- つめかえ式の洗剤（容器が認定）や水切りネットなどの台所用品
- トイレットペーパー
- 洗面器
- 新聞回収用ひも
- 廃食用油石けん
- ショッピングバッグ　他

衣料品・衣料雑貨

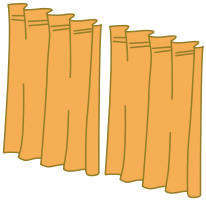
- 革ぐつ
- かばん
- エプロン
- くつ下
- スポーツウェア
- ネクタイ
- 制服・作業服　他

文具・事務用品



- ノートやメモ用紙
- えんぴつ
- ボールペン
- 定規
- 電卓　他

DIY・インテリア



- 塗料
- カーテン
- 障子紙
- じゅうたん
- マット
- 畳　他

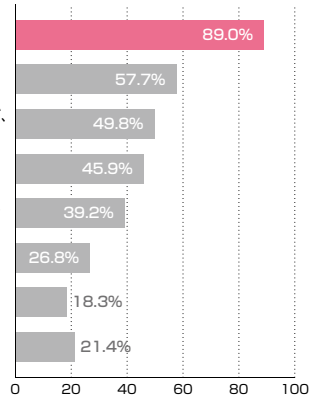
グリーン購入法とエコマーク

持続可能な社会づくりのためには、「再生品等の供給面の取り組み」に加え、「需要面からの取り組みが重要である」という観点から、2000年に循環型社会形成推進基本法の個別法のひとつとして「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」が制定されました。

同法では、国等が購入する商品は、環境への負荷が少ない商品にするように取り組むことを義務づけています。また地方公共団体や民間事業者および国民にも、できるだけグリーン購入に努めるよう求めています。

グリーン購入法の特定調達品目の「判断の基準」を満たした商品を選ぶときは、エコマークが参考になります。エコマークの商品認定基準は、多くの商品分野で、グリーン購入法の「判断の基準」に対応しています。

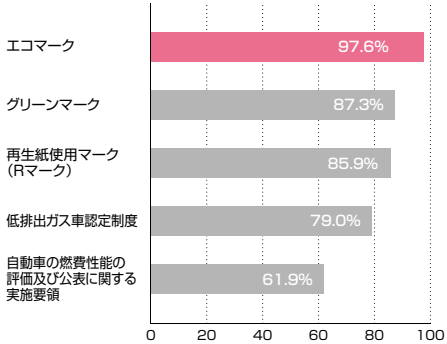
■ グリーン購入を行う際 参考にしている商品の環境情報



「第11回グリーン購入アンケート」調査結果報告
調査時期:2007年12月～2008年2月　調査対象:GPN会員団体
有効回答数:492件（有効回答率16.3%）

■ グリーン購入を行う際 参考にしている環境ラベル等

・エコマークの認定基準は、概ねグリーン購入法の判断の基準と同等以上

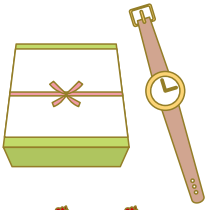


地方公共団体がグリーン購入に際して参考にしている環境ラベル制度等
（27制度から上位5制度を図示）
出典: 平成22年度地方公共団体のグリーン購入に関するアンケート調査　集計結果
（平成23年6月環境省）

家具

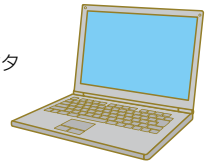
- 机や椅子
- ガーデンチェアー　他

贈答品



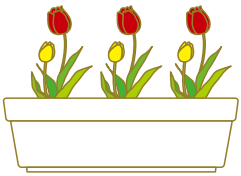
- タオルセット　● 腕時計
- 写真フレーム
- 電報　他

電子機器



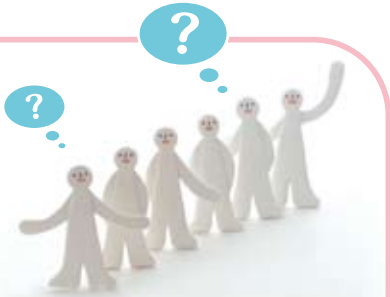
- パソコン　● プロジェクタ
- プリンタ
- インクカートリッジ　他

園芸用品



- コンポスト
- 土壌改良材
- 植木鉢
- プランター　他

ご紹介したものはほんの一例です。まだまだたくさんの認定商品がありますので、「エコマークホームページ」http://www.ecomark.jp でご確認ください。



エコマーク商品はどうやって探せばいいの？

インターネットで手軽に調べることができます。エコマーク商品総合情報サイトの「グリーンステーションWeb」（http://www.greenstation.net/）や「認定商品クイック検索」（http://www.ecomark.jp/sagasu.html）をはじめ、各種検索サイトから「エコマーク認定商品」「エコマーク　通信販売」などのキーワードで検索していただくと、さまざまな商品情報が入手できます。

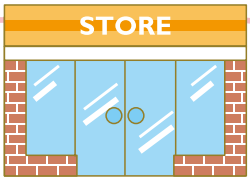
他にも実際に商品を手にとって確認できる「おおさかATCグリーンエコプラザ」、冊子で確認できる「グリーンステーションカタログ」、そしてエコマーク事務局が出展する各種展示会やイベントなどで商品情報を発信しています。またメールマガジンに登録（エコマーク事務局http://www.ecomark.jpで登録）していただくと、常に最新の情報がキャッチできます。

おおさかATCグリーンエコプラザ

エコマーク制度の説明や商品の紹介
（エコプロダクツ-2011）

ホームページ「エコマーク事務局」
www.ecomark.jp/

「グリーンステーション
掲載商品カタログ」



エコマーク商品はどこで買えるの？

みなさんが暮らす町のスーパーやコンビニ、デパートなどさまざまなお店やインターネットでの通信販売でも購入できます。商品を選ぶ際に、ちょっと意識してエコマークを探してみてください。今まで気づかなかっただけで、もう使っているものもあるかもしれませんね。

ちょっと
お耳を拝借!
エコマーク
豆知識

エコマークは「環境を守る気持ち」をデザイン化!

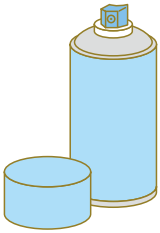
エコマーク事業の開始にあたり、1988年にマークデザインを一般公募。応募総数約2,300点の中から環境庁官賞として選ばれた作品をもとに、エコマークは制定されました。「私たちの手で地球を、環境を守ろう」という願いを込めて、「環境(environment)」および「地球(earth)」の頭文字「e」を表した人間の手が、地球をやさしくつつみ込んでいるすがたをデザインしたものです。

エコマークの近くには認定情報が!

例えば、シャープペンシルなどについているエコマークを見ていただくと、「プラスチックの再利用○○%」と表示しています。ペットボトルなどからの再生繊維でできたバッグや布製品は「再生PET繊維○○%」などの表示です。この“認定情報”はその商品の代表的な特徴を示しています。

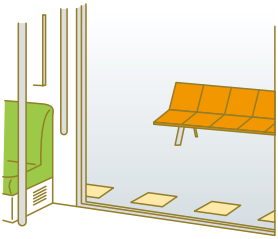
エコマークの最初の商品類型は?

商品類型の第1号は「特定フロンを使用しないスプレー製品」でした。オゾン層を破壊し、地球温暖化を進めてしまう原因のひとつとされるフロンガスについては、90年モントリオール議定書で全廃のスケジュールが決まり、現在では、スプレーには使用されなくなりました。



こんなところにも! あんなものにも!

例えば、公共施設に敷いてあるタイル・ブロック、電車の座席(布)や構内のベンチ、飛行機の客室乗務員の制服など。マークが小さくて目立たず気づきにくいこともあるかもしれませんが、街にはエコマーク認定商品が結構存在しています。ぜひ探してみてくださいね。



エコマークは世界の環境ラベルと協力しています。

世界エコラベリング・ネットワーク

第三者認証機関によって運営されるタイプI環境ラベル(※)制度は、世界の40以上の国や地域で実施されています。それらを運営する環境ラベル機関28団体が世界エコラベリング・ネットワーク(Global Ecolabelling Network : GEN)に参加しています。「エコマーク」はドイツの「ブルーエンジェル」に続き、世界でも長い歴史をもった環境ラベルです。GENの発起団体として、また先行ラベル制度として、常に活動の主導的役割を果たしています。 website www.globalecolabelling.net/

エコマーク(日本)
環境チョイス(オーストラリア)
環境チョイス(ニュージーランド)
環境ラベル認証マーク(香港)
グリーンラベル(香港)
環境ラベル(韓国)
グリーンマーク(台湾)
グリーンラベル(シンガポール)
グリーンラベル(タイ)
エコマーク(インド)
ブルーエンジェル(ドイツ)
グッド環境チョイス(スウェーデン)
環境ラベル(チェコ共和国)
環境ラベル(クロアチア)
ノルディックスワン(北欧諸国/スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、アイスランド、デンマーク)
環境マーク(ウクライナ)
EUエコラベル(EU加盟国を始めとする28ヶ国)
エコロゴ(カナダ)
グリーンシール(アメリカ)
ABNT-環境品質ラベル(ブラジル)
環境ラベル(中国)
TCO(スウェーデン)
エコラベル・インドネシア(インドネシア)
グリーンチョイス(フィリピン)
グリーンラベル(イスラエル)
SIRIMエコラベル(マレーシア)
バイタルリーフ(ロシア)
CQC(中国)

※タイプI環境ラベル: ISO14024に基づいた「第三者認証」のラベルで、「資源の採取から廃棄まで」全ライフサイクルにおける環境影響を一定の基準に基づいて認定しています。

財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局 (受付時間9:30~17:30)

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1−4−16 馬喰町第一ビル9階
E-mail: kouhou@ecomark.jp

【基準・認証課】TEL: 03-5643-6253
エコマーク申請全般、新規商品類型提案、既存商品類型見直しについての提案

【普及・国際協力課】TEL: 03-5643-6255
広報普及、エコマーク記事の紹介・取材依頼、相互認証、GEN

【総務・契約監査課】TEL: 03-5643-6255
エコマーク使用契約・使用料全般、不正使用等の防止・現地監査実施

認定基準や申込様式等
詳しくは下記URLへどうぞ
www.ecomark.jp
エコマーク 検索